

おもいやりライト運動事務局 (<http://www.omoiyari-light.com/>)

おもいやりライト運動事務局、意識調査と実地調査でヘッドライト点灯状況を調査

夕暮れ時（日の入り30分前）の点灯実施はわずか1割

早期点灯するタイミングはまだ明るいと感じる“日の入り30分前”！

ヘッドライト早期点灯研究所調べ（調査元：株式会社日本能率協会総合研究所）

おもいやりライト運動事務局（所在地：神奈川県横浜市中区）は、交通事故削減を目指し、夕暮れ時のヘッドライト早期点灯の呼び掛けや「見えやすさ・見られやすさ」を認識してもらう事を目的とした情報発信を、年間を通し継続的に行っています。昨年に引き続き、同事務局の「ヘッドライト早期点灯研究所」では株式会社日本能率協会総合研究所と共同で、全国のドライバー1,000人を対象に、インターネットを活用した意識調査（Web アンケート）を実施しました。さらに、この意識調査に加え、おもいやりライト運動事務局は初めて、神奈川県横浜市内の市道にて、夕暮れ時に走行するクルマのヘッドライト点灯有無を調べる実地調査を行いました。

《WEB アンケートによる意識調査》

◎早期点灯となる“日の入り30分前”に点灯しているドライバーは、11.4%

「車のヘッドライトを点灯するのは5つの写真の中でどの状態に近いか？」との問いに対し、早期点灯となる日の入り30分前に点灯する写真を選んだドライバーはわずか1割にとどまりました。

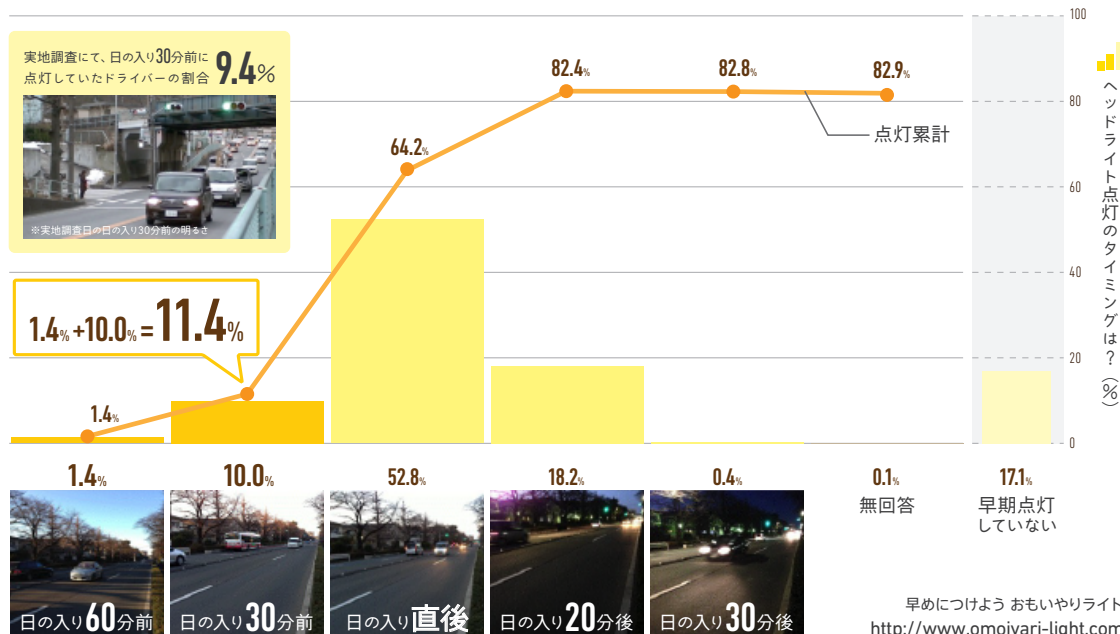
《神奈川県横浜市内の市道で行った実地調査》

◎“日の入り30分前”に点灯したドライバーは、9.4%

同事務局は、夕暮れ時に走行するクルマのヘッドライト点灯状況について、初の実地調査を行ったところ、日の入り30分前の10分間に点灯していたクルマの台数は全体の1割弱でした。

また、「車を運転しているときにヘッドライト早期点灯を実施しているか？」との意識調査に対し、早期点灯を「いつも実施している」「時々実施している」と回答したドライバーは全体の8割を超えていました(82.9%)。これらの結果により、多くのドライバーが早期点灯を意識しているながらも、実際の点灯タイミングは日の入り後に多く、早期点灯時刻の意識と行動にずれが生じていることが分かります。

夕暮れ時（日の入り30分前）の点灯実施はわずか1割



『クルマによる交通事故が多発する時間帯は、一年を通して 16 時から 18 時の間です。』

周囲にしっかりとクルマの存在を知らしめるためには、周りが暗くなったと感じるよりも早くヘッドライトを点灯することが大事です。

同事務局は、夕暮れ時にヘッドライトを点灯する事で、歩行者や自転車からクルマの存在を早めに気づいてもらいやすくなり、交通事故を未然に防げるのでは、と考えています。おもいやりライトタイムである夕暮れ時、日の入り 30 分前は、周りが暗くなる前の思っているよりも明るい時間帯で、夕暮れの美しい素敵な時でもあります。道路を共有する他者同士が、相手におもいやりの気持ちを持って接する事ができればきっと交通事故は減らせるはずです。

同事務局は、これまでランナー、市民、企業などの方々と一緒にヘッドライト点灯車両を増やすべく活動してきました。2014 年度は、これまでの活動をさらにパワーアップさせ、特にドライバーの方々に対し、早めにヘッドライトを点灯する意識付けに注力し活動していきます。

おもいやりライト運動事務局は、2010 年秋より活動をスタートさせ、2014 年 4 月現在 3700 件を超える企業・団体・個人の方々賛同パートナーとして集っており、全国的に「おもいやりライト運動」の賛同の輪が広がっています。

※日産自動車株式会社は、ハローセーフティキャンペーンの一環として、市民と一緒に「おもいやりライト運動」に取り組む事で活動を推進しています。

※調査概要について※

《WEB アンケートによる意識調査》

○ 調査方法：株式会社日本能率協会総合研究所が保有する消費者アンケートモニター(MDB ネットサーベイ)を対象とした WEB アンケート調査

○ 調査時期：2013 年 12 月 11 日～12 月 17 日

○ 調査対象：全国四輪自動車を運転する 20 代～60 代以上の方、全 1000 名（※男女同比）

《神奈川県横浜市内の市道で行った実地調査》

○ 調査場所：神奈川県市道・横浜逗子線栗木上り線

※ 国土交通省が平成 22 年に実施した全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）の実施地点から選定

○ 調査日時：2014 年 2 月 13 日の日没前 30 分～20 分の 10 分間

※ 2014 年 2 月 13 日 16:51-17:01（この日の横浜の日没時間は 17:21。天気は曇り）

○ 調査実施：株式会社日本能率協会総合研究所

■ 上記に関するお問い合わせは下記までお寄せください ■

おもいやりライト運動事務局 広報担当：榊原あすか

（株式会社サステナブル：東京都渋谷区代々木 1-20-4 代々木ダイヤビル 4 階）

Mobile:090-9310-5459 TEL:03-3376-6660/FAX:03-3376-6663 MAIL:a.sakakibara@sustainable.co.jp

● 2014年のおもいやりライト運動事務局の活動についてのお知らせ ●

『ライティングガールキャラバンの実施』

高視認性安全服を着たライティングガールが、ドライバーの集まるOFF会やクルマをテーマとした全国のイベントに出動します。アンケートを実施するなどとともにヘッドライト早期点灯の啓発活動を行います。ライティングガールについては、<http://www.omoiyari-light.com/LIGHTING-GIRL/> で制作の様子から公開していきます。

『夕方安全創造会議を開催』

昨年11月に開催した夕方安全創造会議では、俳優の大和田伸也さんにご登壇いただき、賛同パートナー企業や団体のプレゼンテーション、参加者全員参加によるワークショップなどを実施し、お陰さまで大盛況でした。今年は規模を拡大し、夕暮れ時の交通安全に関する取組みの報告やアイデアの発表などをしながら、企業と団体、市民を結びつけていきます。

『11/10 いい点灯の日を目指し路上アクションを実施』

昨年、山形・広島・岡山・横浜・平塚・小田原などで行ったアクション。夕暮れ時、早めの時間帯にヘッドライトを点灯することを訴えるパネルを掲げ、ドライバーにヘッドライト点灯を呼びかけていくシンプルなアクションをベースに、新しいアイデアも取り入れて、賛同パートナーとともに全国で呼びかけ、ヘッドライト点灯の台数増加を目指します。

『全国各地の賛同パートナーを訪問』

全国各地で活躍する賛同パートナーに会いにいき、交通安全への様々な取り組みについて、事務局スタッフが取材に赴き、紹介していきます。表現は違えど交通事故0を目指す目的は同じです。その活動を激励し、交流する機会として今年も積極的に行っていきます。

● 賛同パートナーについて ●

2013年は地道な活動を続けたおかげで、ハイドサイン株式会社、一般社団法人日本高視認性安全服研究所(略号 JAVISA)、CAR&DRIVER、日産レンタカーといった方々が新たな力強い味方となっていただけました。2014年はまた新たな“つながり”が生まれることを目指して全国へ足を運び、更なるおもいやりをあたためていく予定です。

◎日産レンタカーは 春の全国交通安全運動期間中(4月6日～15日)、おもいやりライト運動の啓発活動を全国の営業所にて実施します

株式会社日産カーレンタルソリューション(所在地:神奈川県横浜市西区)は、おもいやりライト運動に賛同し、春の全国交通安全運動の期間において、全国350店舗にておもいやりライト運動のポスターを掲示し、また期間中に日産レンタカーをご利用下さる方々に、おもいやりライトのリーフレットも配布します。

「出張先、旅行先でのレンタカーでも、早めのライト点灯を忘れずに。」

● おもいやりライトつけます宣言について ●

同事務局では、全国の方々から賛同表明のメッセージやご連絡を毎日のようにいただいています。また公式WEBサイトに設けている1クリックで賛同を表明できる「おもいやりライトつけます宣言」が2013年中は2217件増え、2014年4月現在3772件となりました。

● 賛同パートナーのご紹介 ●

2014年4月現在、企業および団体の賛同パートナー数は約80です。事務局WEBサイト“おもいやりライト運動の広がり”ページにて紹介しておりますので、こちらをご参照ください。

<http://www.omoiyari-light.com/ACTIVITY/>